

戦後歴史学の古代・中世史研究において、東大寺文書はその基盤となる史料群のひとつでした。さらに1980・90年代には寺院史研究からのアプローチが進展し、史料群としての全貌が明らかとなりつつあります。

研究資源の基盤整備の面でも、『東大寺文書目録』（同朋舎、1984年）や、国立歴史民俗博物館あるいは東京大学史料編纂所などのデータベース開発など先端的な試みがなされ、さらなる研究の深まりと広がりが期待されています。

このような流れを加速するために基盤研究（B）「復元的手法による東大寺文書研究の高度化—『東大寺文書目録』後の総括・展望—」は、カラーマイクログレデジタルスキャンデータの利用などデータベースの整備を行いました。その過程で新しい研究視角や方法の可能性が見えてきたところです。

その成果を検討・議論し、これからの中世東大寺文書研究のさらなる発展の礎となる機会といたしたく存じます。

公開研究会 これからの東大寺文書 研究のために

日時

2016年3月4日（金） 9:30～17:30（9:00受付開始）

場所

東京大学史料編纂所福武ホール地下 1F 大会議室

報告

- 報告 1 遠藤基郎「科研の成果—東大寺文書関連データベースをさらに活用するために」
- 報告 2 菊地大樹「中世東大寺堂家の活動について」
- 報告 3 小原嘉記「鎌倉後期の東大寺大勧進とその周縁—禅律僧の登場」

—お昼休み—

- 報告 4 畠山聡「東大寺図書館所蔵記録類の解題的研究」

- 報告 5 西尾知己「東大寺衆中の室町期的展開」
- 休憩—

討論 コメント：永村真・稲葉伸道・久野修義

基盤研究（B）「復元的手法による東大寺文書研究の高度化—『東大寺文書目録』後の総括・展望—」グループ（代表遠藤基郎）・日本古文書学会共催

科研費
KAKENHI